

## 自分らしく

流山市立常盤松中学校 三年

筒井 柚帆  
つつい ゆずほ

全ての人が「自分らしく」笑うためにはどうすればいいのでしょうか。皆さんは、今、「自分らしく」生きていますか。

家族と出掛けていた時のことです。あるカップルが手をつないで歩いていました。二人の薬指の控えめに光る指輪が深く印象に残っています。その二人の横をすれ違うサラリーマンがつぶやいた言葉を私は聞いてしまいました。

「男同士なんて気持ち悪い。恥ずかしいから堂々と歩くな。」そう、彼らは同性カップルだったのです。その言葉を聞いて私は純粹に怒りを覚えました。私よりもはるかに人生経験を積んだように見えた大人もそんなものか。

それと同時に私がまだ小学生だった頃の出来事を思い出しました。進級して初めての授業、ピンクが好きだと言った私に友人は「似合わない」「おかしい」と、言いました。その言葉は私をひどく傷つけました。そして、ある人と出会うまで自分の「好き」という思いそのものを隠し、過ごすことに

しました。自分自身の本当の声を聴くことを恐れ、周りに合わせ、そして時には人を傷つけるようなこともしました。そんな自分が嫌いだったのです。

しかし、まだ幼い私が、悩み眠れない夜を過ごす必要はあったのでしょうか。私はやっぱりそうは思えません。私は変わろうと決めた日からずっと、人の誠実な思いを簡単に否定するなど叫びたかった。

私は自分の肌色が小さなころからのコンプレックスでした。それは正直今も変わっていません。

「真っ黒なのにピンク色が好きだなんておかしい。」

この言葉が何をする時にも私の頭から離れなかった。仲の良い友達と工作をしている時も私が可愛い色を使つてはだめだと自分から蓋をしました。自分らしく笑っている人が眩しくて仕方がなかった。そんな時にある一人の男の子と出会いました。彼は料理や裁縫が好きで、クラスメイトからは「女かよ」と馬鹿にされていましたが、そんなこと気にする様子もなく、最近作った料理の話などを聞かせてくれました。だからつい聞いてしまったのです。私がピンク色を好きなことっておかしいかなど。そうすると彼は迷う素振りも見せず「ピンクは明るいから、笑っている柚帆にピッタリだよ。」と言いました。そのたった一つの言葉と笑顔が今でも私の光

です。心の奥に隠していた「好き」という気持ちを真っ直ぐに照らしてくれています。私はこの先何があってもこの光を胸に、本当の意味で自分らしくあろうと決めました。忘れたい過去がある、それは変わらず私の中で今も息をしています。でもそんな私だからこそ、誰かに、そしてあなたに、寄り添える言葉をもってしていると信じています。

誰かに自分の「好き」を肯定される経験は自身の世界がより輝くために大切なこと。彼が教えてくれたことです。他にもたくさんの人との出会いが、自分自身の心も大切にしなければならぬと教えてくれました。人は「似合う」「似合わない」で価値を見出すのではなく、心から「好き」を表現することが、その人らしきにつながるのだと思います。自分の持つ個性や価値観を信じ、愛しましょう。

私は、周りの人の心に素直に向き合える今の自分が好きです。自分のことを好きになれたのは、多くの人が本当の私と向き合ってくれたから…。そして、本当の私を全て伝えようと決心した自分がいたからです。自分を好きになるためには、今を生きる私達が「普通」という固定概念に囚われないことが大切です。本当の自分らしく生きてみたい、そんな人は、今からでもいい、明日からでもいい、自分の本当の声をもつと聴いてあげてほしい。そして全ての人に自分らしさを好き

になってほしい。そうすれば私の世界も貴方の世界も、もっともつと輝けるのではないのでしょうか。これからも私は、大切な人とともに笑いたい。それが何より自分らしいから。私の言葉が、今日誰かの光になることを、心から願っています。